

History

キラリを再発見

水路工事中に発見された遺跡

天王神社東遺跡は、新野地区上組の天王橋近くの津島神社周辺から有ケ谷の熊五郎橋の近くの低湿地に立地する、古墳時代と平安・鎌倉時代の集落遺跡です。

平成9年に新野東土地改良区によるほ場整備事業の水路工事中に遺物が出土したことから、周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されました。

この遺跡からは、古墳・平安・鎌倉時代の土器類や陶器類が出土しています。

古墳時代の遺物としては5世紀の甕や6世紀前半の土師器の高坏が、平安時代の遺物としては10世紀から11世紀にかけての灰釉陶器の坏と長頸瓶が出土しています。鎌倉時代の遺物としては、12世紀から13世紀にかけての山茶と土器(素焼きの杯)が出土しています。

発掘調査が行われていないため、住居跡などの遺構については不明です。

照会 社会教育課 ☎0548③1129



▲平安時代(10世紀)の長頸瓶と坏



▲平安時代(11世紀)の坏



▲古墳時代後期(6世紀前半)の高坏の破片



埋蔵文化財包蔵地
天王神社東遺跡

Atomic

暮らしと原子力

使用済み燃料乾式
貯蔵施設の建設を申請

中部電力は、浜岡原子力発電所使用済み燃料乾式貯蔵施設※(以下、「乾式貯蔵施設」という)について、平成20年12月に建設計画を、平成26年7月に同計画の変更を公表し、平成27年1月26日に原子力規制委員会に申請書を提出し、同日、市と市議会へ説明しました。

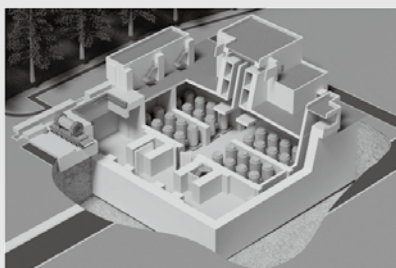
今回の申請は、中部電力が平成26年2月に申請した浜岡原子力発電所4号機の発電用原子炉設置変更許可申請書に、乾式貯蔵施設に関する事項を追記して再申請したものです。

なお、中部電力によると、平成26年2月の申請を受けて原子力規制委員会がこれまで実施した審査は、申請内容に変更がないことから今後も引き続き実施されていくと考えているとのこと。

今後、中部電力は平成30年

度の使用開始を目指して、乾式貯蔵施設の建設計画を進めていきます。

※「使用済み燃料乾式貯蔵施設」は、燃料プールに貯蔵した使用済み燃料のうち10年以上冷却したものを、再処理施設に搬出するまでの間、放射線を遮へいする金属キャスクと呼ばれる容器に入れ、空気の自然循環で冷やしながら貯蔵する施設です。



▲乾式貯蔵施設イメージ図

金属キャスク▶

